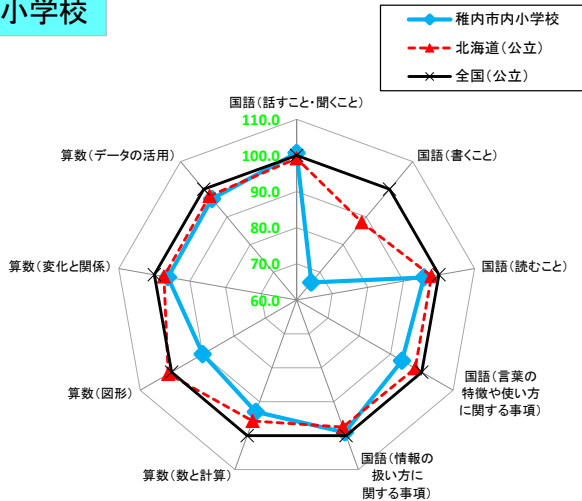


■ 稚内市内の状況及び学力向上策 (小学校数:10校、児童数:192人) (中学校数:7校、生徒数:200人)

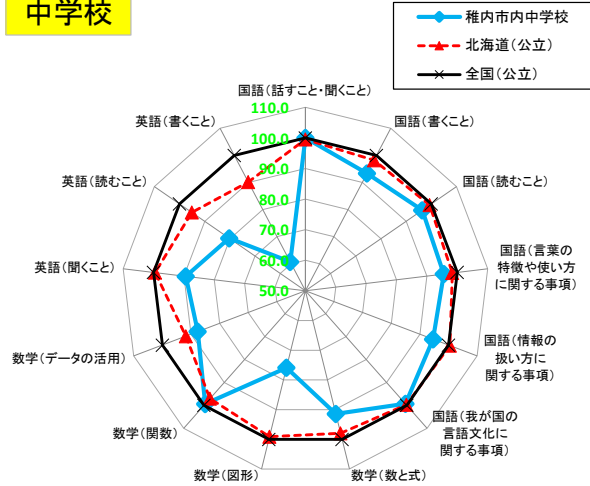
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

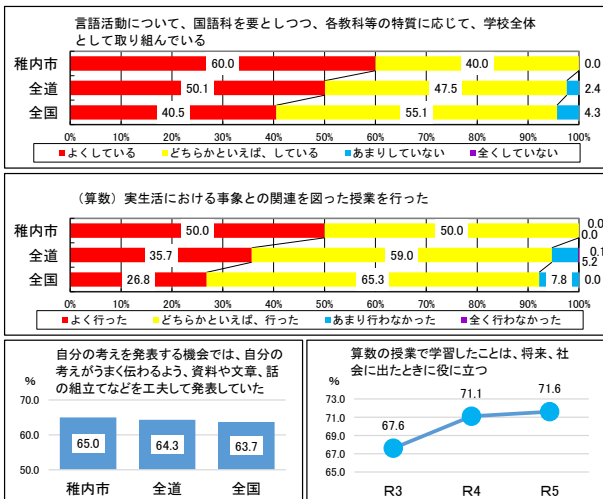


中学校

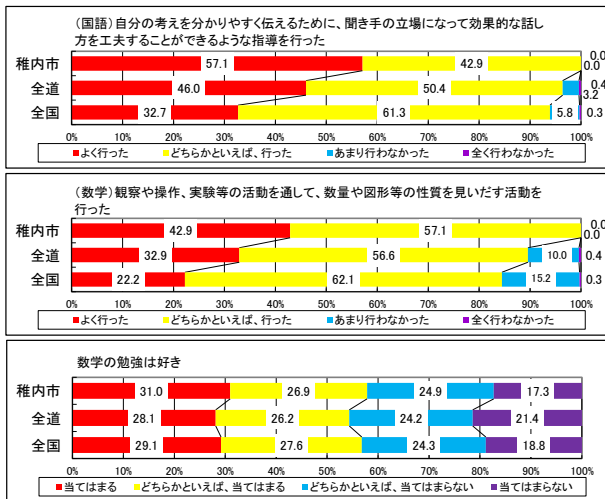


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校で、言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと肯定的に回答した児童が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校で、算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が昨年度より増加したと考えられる。

中学校

各学校で、国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場になって効果的な話し方を工夫することができようような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校で、数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「関数」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【稚内市の学力向上策】

- ◎ 退職教員等による「放課後学力グングン塾」の実施
- ◎ ICT機器及びアプリ等の活用の推進
- ◎ 学びの連続性を確保するための小中連携教育の推進

【Webページ】



(R5.11掲載予定)

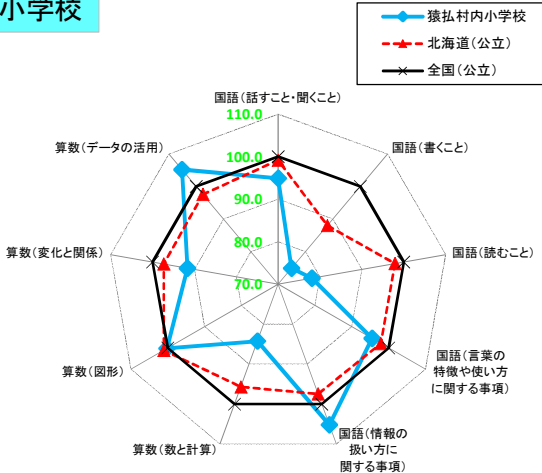
■猿払村内の状況及び学力向上策（小学校数：3校、児童数：15人）（中学校数：1校、生徒数：23人）

【教科全体の状況】

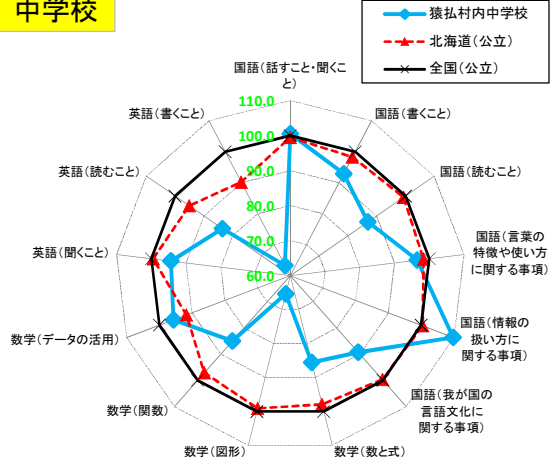
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	67
算数・数学	58	43
英語		39

小学校

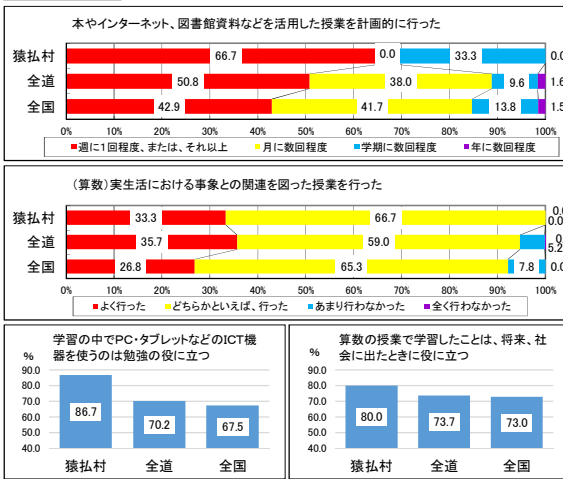


中学校

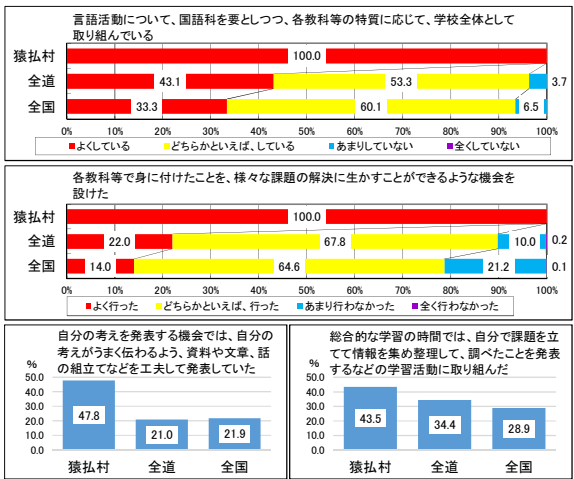


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校で、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、授業改善が図られ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の1事項及び算数の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校で、算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域及び「情報の扱い方の関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、授業改善が図られ、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【猿払村の学力向上策】

- ◎ タブレット端末やプロジェクター導入によるICT教育の推進
- ◎ 「家庭学習の手引」の活用や「メディアルール」の共通理解等、家庭と連携した学習習慣・生活習慣の確立
- ◎ 猿払村教育研究会と連携した公開授業の実施や、「よくわかる猿払スタンダード」の取組
- ◎ 基礎学力向上や家庭学習の定着のための公設塾「未来塾」の運営

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

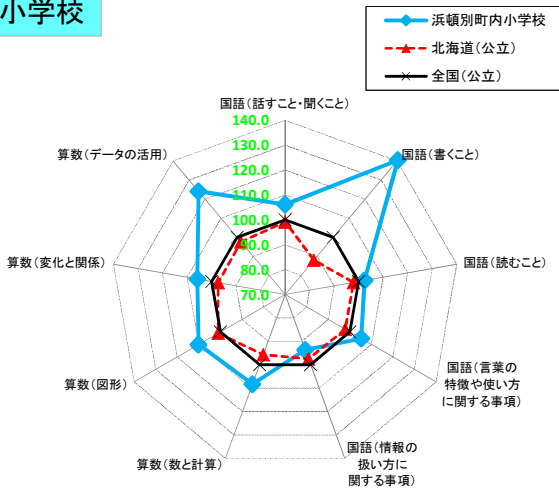
■浜頓別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:16人）（中学校数:1校、生徒数:21人）

【教科全体の状況】

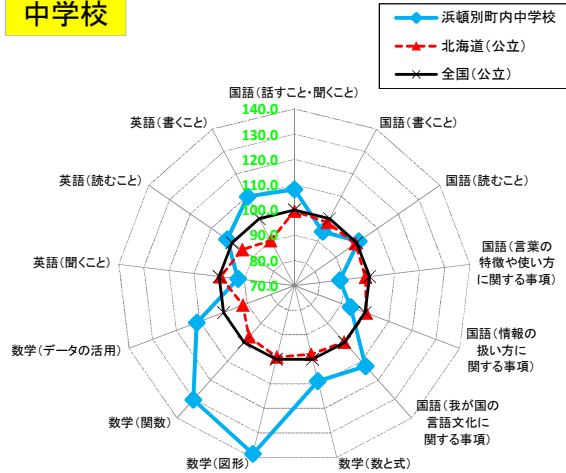
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	71
算数・数学	70	61
英語		45

小学校

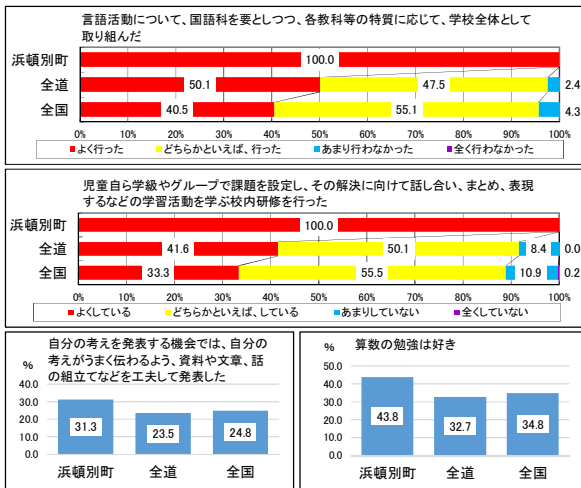


中学校

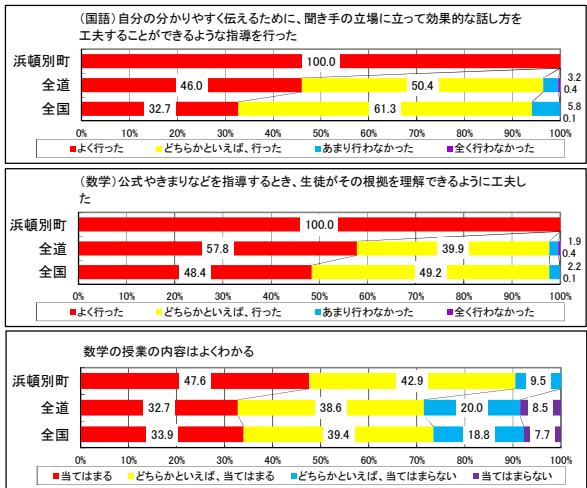


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の3領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浜頓別町の学力向上策】

- ◎ 学校力向上に関する総合実践事業に係る町独自の教員の資質向上研修の実施
- ◎ 一人一台端末を活用した授業改善の促進
- ◎ 学力観の転換に伴う地域の学びと教育の情報化のベストミックスをねらいとした地学協働の取組の推進
- ◎ 学力調査のCBT化等に対応するためのIT企業の協力による教員研修の実施

【Webページ】



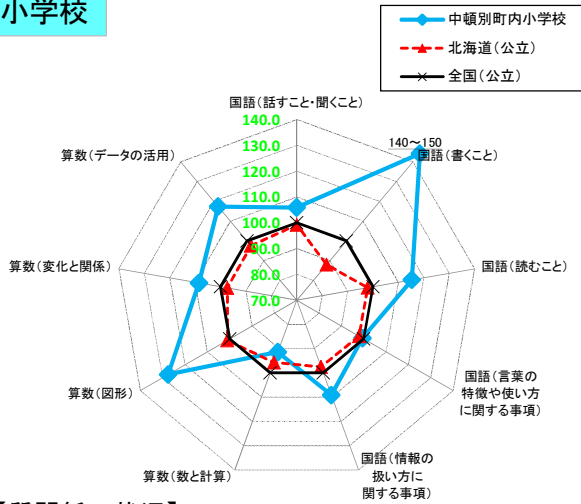
■中頓別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:5人）

【教科全体の状況】

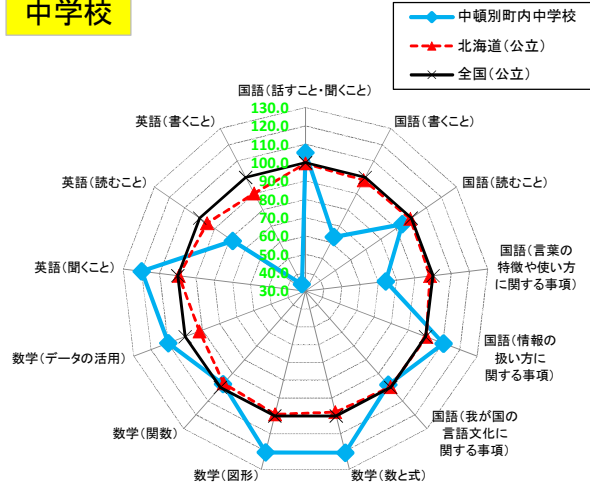
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	71
算数・数学	68	61
外国語		45

小学校

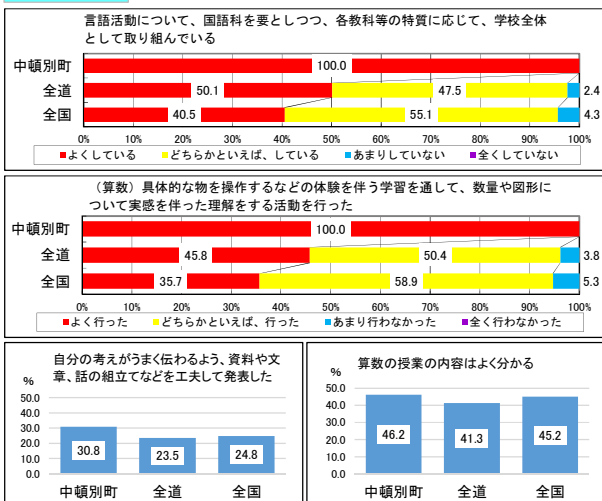


中学校

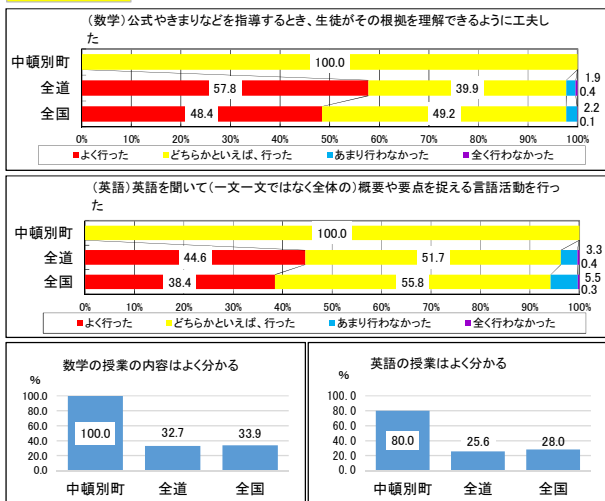


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特徴に応じて、学校全体として取り組んだことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の3領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「数と式」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
英語の授業において、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、英語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【中頓別町の学力向上策】

- ◎ 中頓別町教育研究会への支援、中頓別町・浜頓別町合同研究会の開催
- ◎ なかたん学習塾での学力向上支援、町指導主事による授業力向上支援の充実
- ◎ 校内での教師の資質向上、授業力向上を目指す各学校における「ミニ研修」の実施

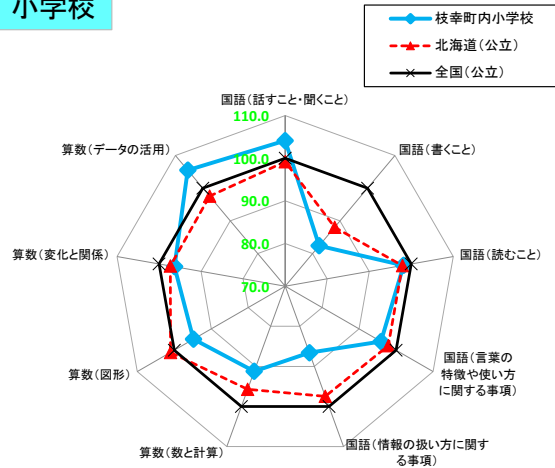
■枝幸町内の状況及び学力向上策（小学校数：7校、児童数：41人）（中学校数：3校、生徒数：51人）

【教科全体の状況】

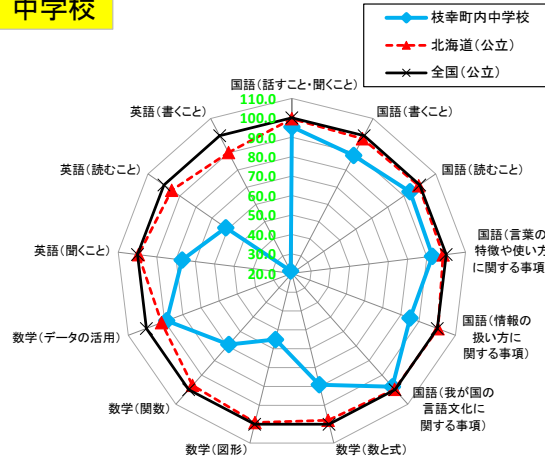
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	65
算数・数学	60	38
英語		28

小学校

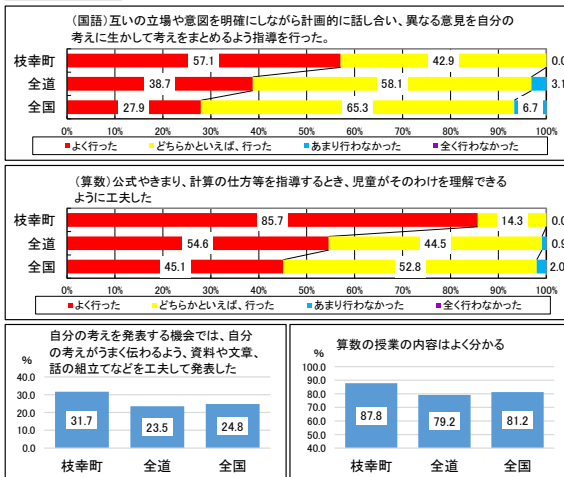


中学校

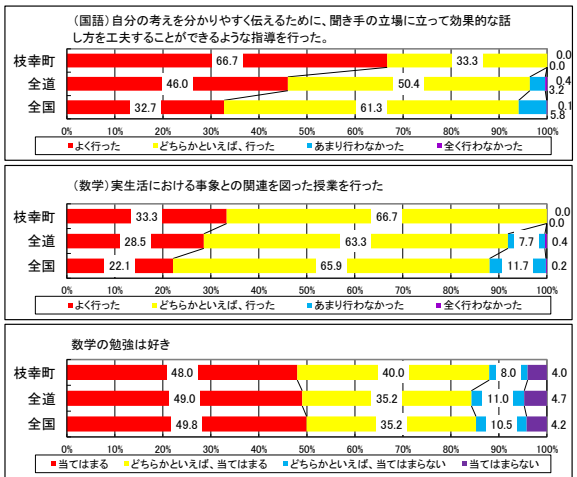


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校で、国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめるよう指導を行ったことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校で、算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業の内容はよく分かることと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各学校で、国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国に最も近付いたと考えられる。

各学校で、数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切であると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国に最も近付いたと考えられる。

【枝幸町の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末を活用した実践的な情報活用力の育成
- ◎ 全国学力・学習状況調査の調査結果の分析を踏まえた検証改善サイクルの確立と授業改善の取組の推進
- ◎ 「えさっ子の未来を拓く十か条」を生かした、学校・家庭・地域が一体となった学習習慣、生活習慣改善の取組の推進
- ◎ 「家庭学習のとびら」を活用した学習習慣の確立を図る取組の推進

【Webページ】



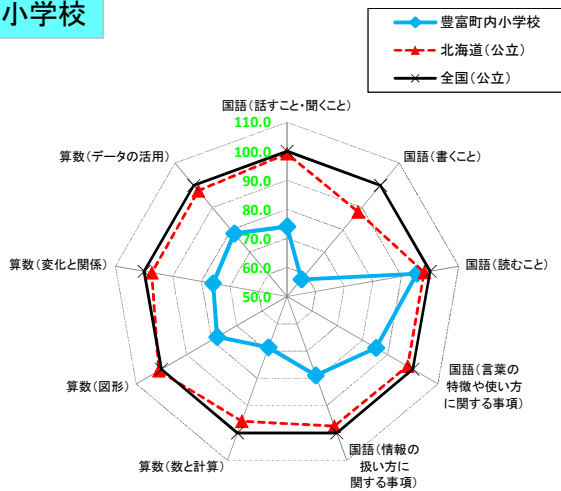
■豊富町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:26人) (中学校数:1校、生徒数:21人)

【教科全体の状況】

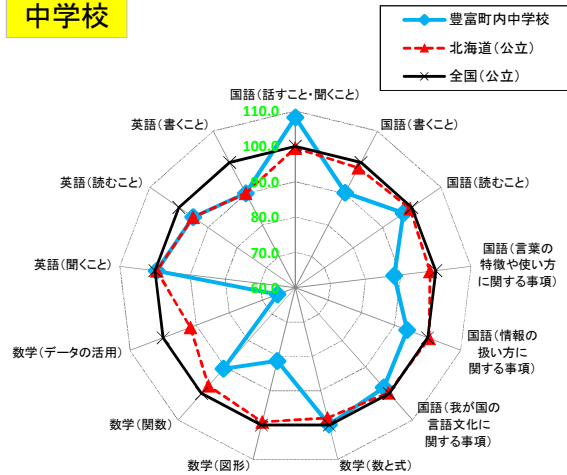
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	68
算数・数学	46	45
英語		33

小学校

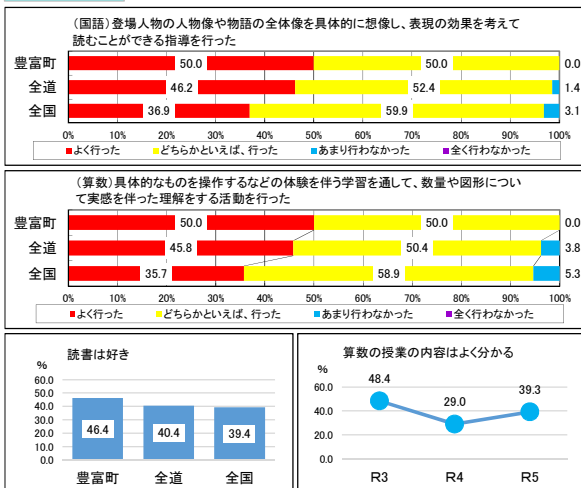


中学校

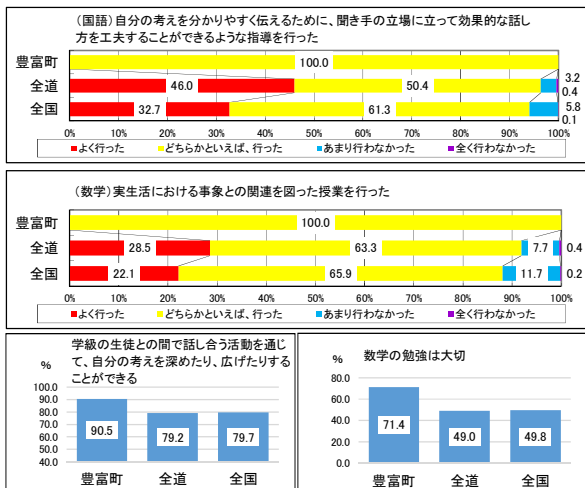


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校で、国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができる指導を行ったことにより、読書は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国に最も近付いたと考えられる。

各学校で、算数の授業において、具体的なものを操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が昨年度より増加したと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切であると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「数と式」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

【豊富町の学力向上策】

- ◎ 近隣の大学、高校と連携した学びの教室の開催
- ◎ 小学生を対象とした公設による学習塾の設置
- ◎ 「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」によるICTの効果的な活用の推進
- ◎ ALT(外国語指導助手)との協働学習の推進

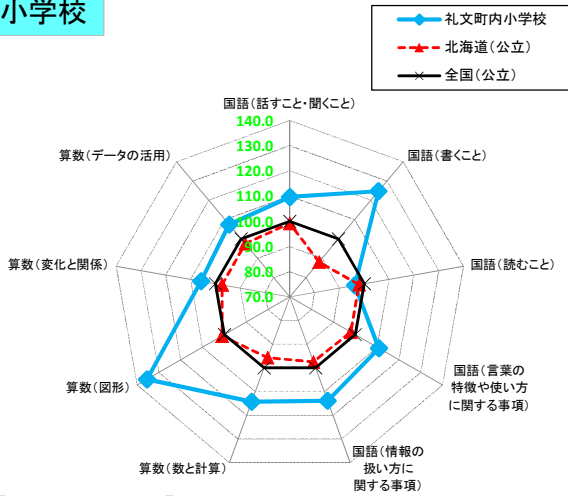
■ 礼文町内の状況及び学力向上策 (小学校数:3校、児童数:18人) (中学校数:2校、生徒数:21人)

【教科全体の状況】

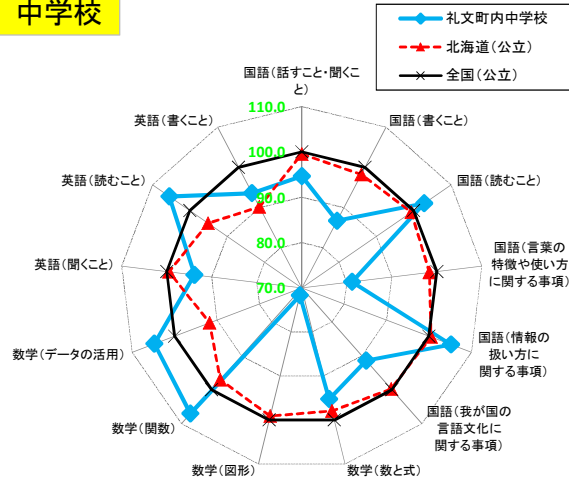
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	67
算数・数学	72	50
英語		45

小学校

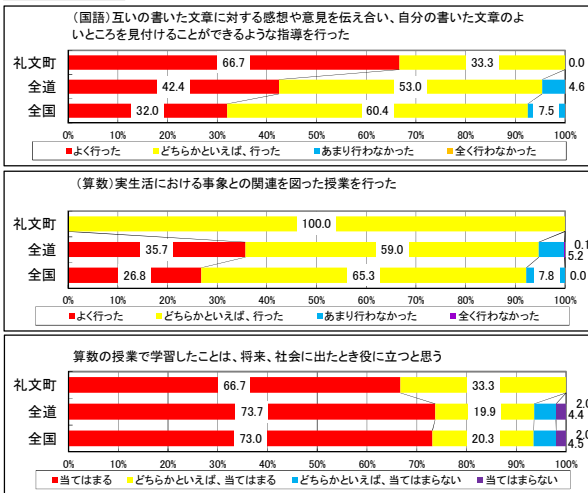


中学校

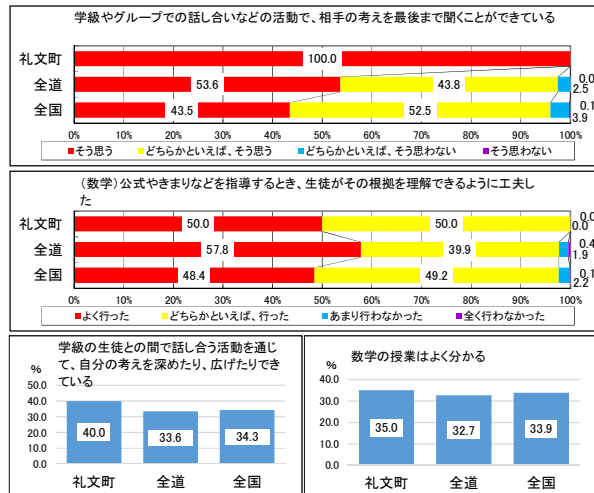


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校の国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の書いた文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「書くこと」の領域及び2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校の算数科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各学校において、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができるよう指導したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の1領域1事項、数学の2領域及び英語の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校の数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【礼文町の学力向上策】

- ◎ 観光大使活動などを通して地域について学ぶ「礼文学」「礼文検定」の実施
- ◎ 1人1台端末を有効活用した学習活動の充実
- ◎ 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学校ごとの「学校改善プラン」の作成

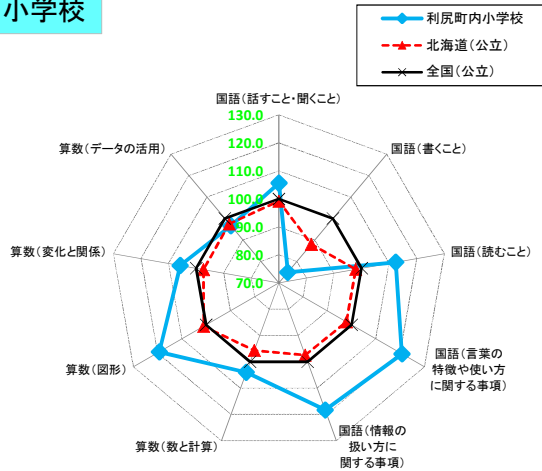
■利尻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

【教科全体の状況】

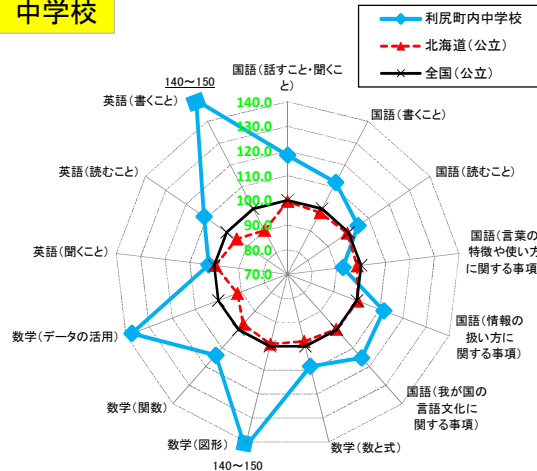
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	76	76
算数・数学	67	61
外国語		51

小学校

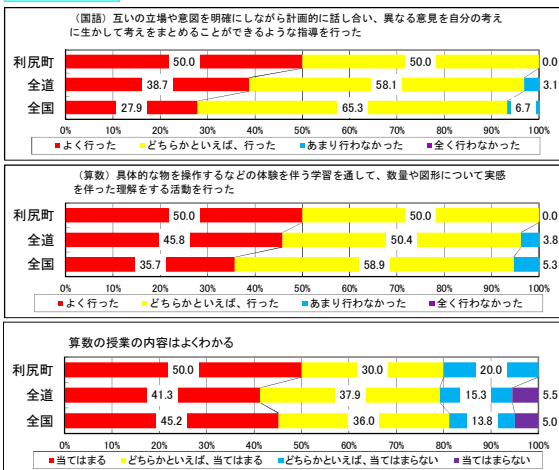


中学校

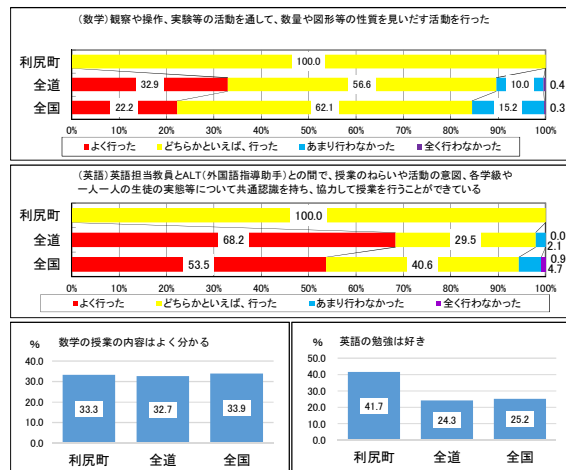


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
各学校で、国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながらかつ画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域及び2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
各学校で、算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると肯定的な回答をした生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
英語の授業において、英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、英語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【利尻町の学力向上策】

- ◎ 利尻町で作成した独自の問題集の活用
- ◎ CRT学力検査の実施
- ◎ 島内小・中学校間連携による教員の資質能力の向上
- ◎ 大学生を活用した学力向上推進事業の実施(教育委員会社会教育事業)
- ◎ 1人1台端末等を活用したICT教育の推進
- ◎ 中学生を対象とした公設塾の設置

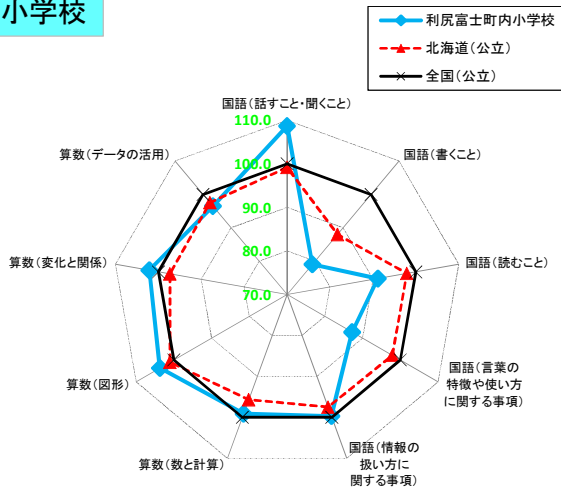
■利尻富士町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：19人）（中学校数：2校、生徒数：15人）

【教科全体の状況】

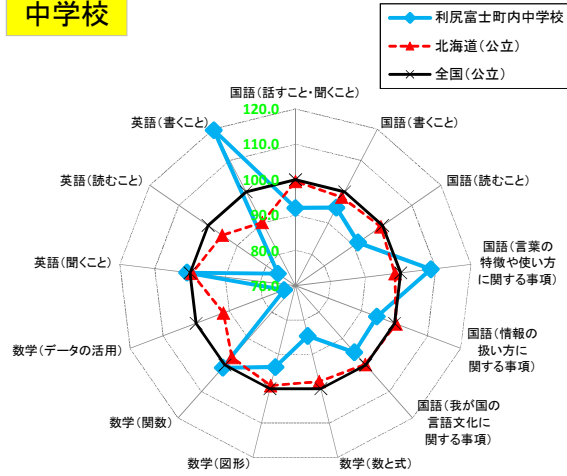
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	67
算数・数学	63	45
英語		43

小学校

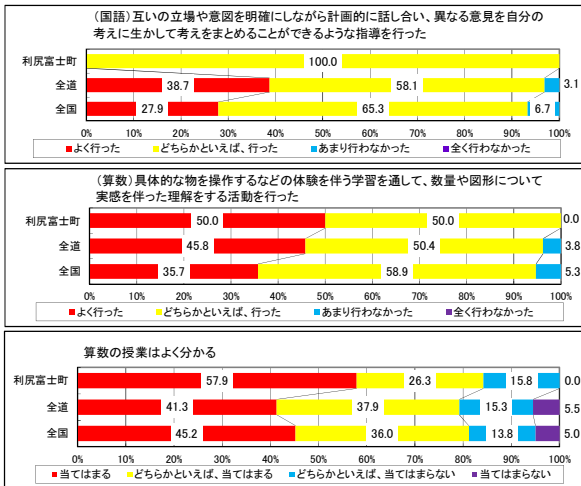


中学校

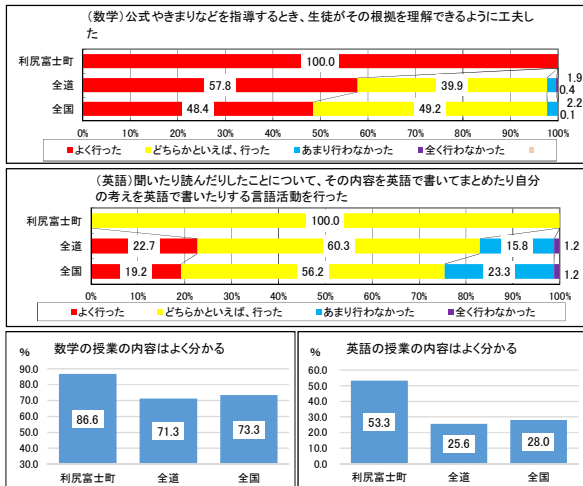


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校で、国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校で、算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「図形」及び「変化と関係」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各学校で、数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回り、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校で、英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行ったことにより、英語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「聞くこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【利尻富士町の学力向上策】

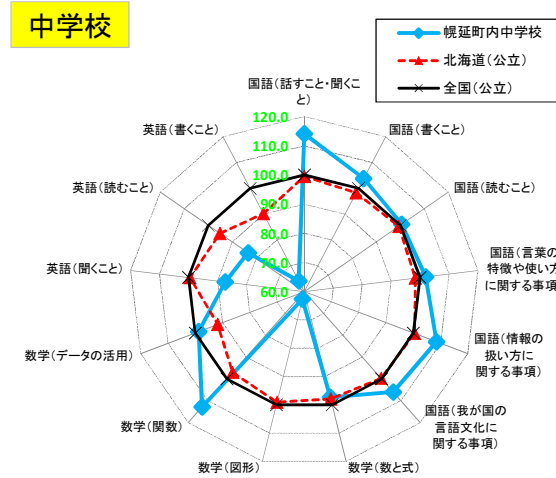
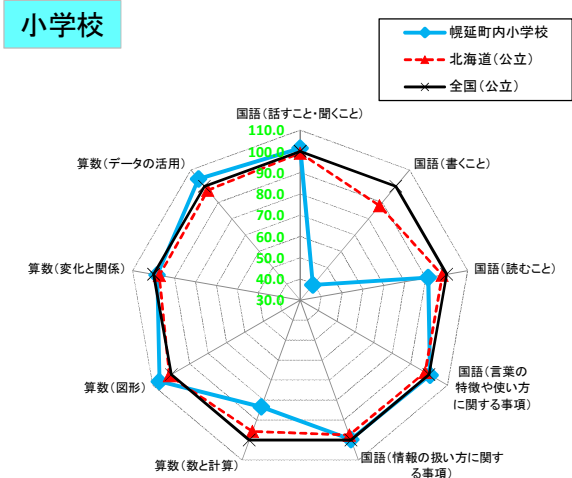
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく個に応じた指導の改善・充実
- ◎ 小中連携による乗り入れ授業の実施、TT指導・習熟度別授業の推進
- ◎ 1人1台端末、ICT機器AIアプリを活用した授業及び学習の推進
- ◎ 各種検定受検料の助成(令和4年度より1回目合格者を対象に、助成回数を2回に増加)

■幌延町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：19人）（中学校数：2校、生徒数：16人）

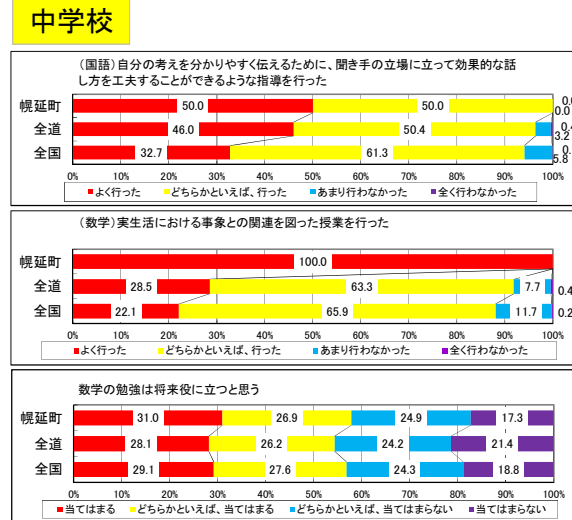
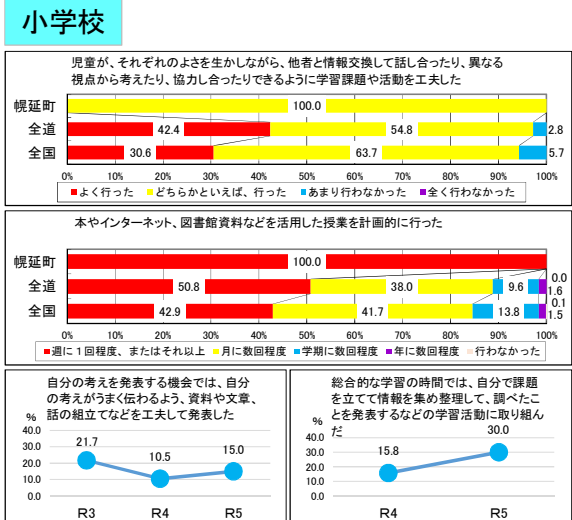
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	75
算数・数学	60	50
外国語		38



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童が、それぞれのよきを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が、前年度より増加するとともに、国語の1領域1事項、算数2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各教科の学習において、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、授業改善が図られ、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと回答した児童の割合が前年度より増加したと考えられる。

中学校

各学校で、国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校で、数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は将来役に立つと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【幌延町の学力向上策】

- ◎ 学校ごとの学力向上プランと評価の実施
- ◎ テーム・ティーチングや習熟度別学習、個別学習など、指導体制の充実
- ◎ 公開授業研究会の開催など、町内の学校が一体となった授業改善の取組の推進
- ◎ 遠隔教育特別校制度やAIDリルの活用など学力向上に向けたICT機器の活用